

聖書ほんやく

No.231、2010年8月号



◆発行◆日本ウィクリフ聖書翻訳協会(〒351-0021 埼玉県朝霞市西弁財1-9-26-210)Tel & Fax: 048(466)3730 ◆総主事◆土井彰
◆郵便振替口座◆00150-4-106574 ◆電子メール◆japan_wycliffe@wycliffe.org ◆ホームページ◆www.wycliffejapan.org

アタ語新約聖書(創世記・ヨナ書付)の前売り券を購入した人々(写真提供: Judy Wada)

南太平洋赤道直下、パプアニューギニアの西ニューブリテン州にあるワシラオ村にアタ語を話す人々が生活しています。人口約2,000人の小さな民族です。焼き畑農業を中心として、狩猟をしながら生活をしています。密林に覆われ、車が通れるような道はほとんどありません。

私達宣教師は、ウカルンパ・センターからセスナ機に乗って空路を移動し、まずホスキンスの空港に着きます。この飛行場は、第2次世界大戦の時に日本軍がパプアニューギニアの人々に作らせた滑走路です。そこ



アタ語新約聖書(創世記・ヨナ書付)完成の喜び

からキンベの町に出て、さらに車で2時間半行くとワシラオ村に着きます。この道は、以前日本の大きな材木会社が使用していた道です。

1983年に、前橋キリスト教会から聖書翻訳宣教師として派遣された橋本一雄・千代子宣教師夫妻が、1984年にアタ語聖書翻訳プロジェクトを開始しました。彼らは、二人の幼い子供を連れて、ワシラオ村に住み始めました。アタ語には、書き言葉がありませんでした。橋本宣教師夫妻は、アタ語の音韻、文法を研究し、アタ語のアルファベットを制定しました。1988年に「創世記」が完成しました。



久米のぞみ宣教師と橋本千代子宣教師

私は、1994年に、識字教育の分野で働くためにパプアニューギニアに派遣され、このアタ語聖書翻訳プロジェクトに加わりしました。その後、アタ語の聖書翻訳の大黒柱であった橋本一雄宣教師が1997年に突然召され、天の御国に帰りました。その時、この聖書翻訳の働きは中断されると思われました。けれども、この働きを始められた主ご自身が、働きを進められ成し遂げてくださいました。

翻訳協力者であった、ルバシ兄、ウェンガ兄、ウツシア兄、モリア兄達が翻訳の働きを続け、橋本千代子宣教師も、パプアニューギニアでのアタ語の働きを続けました。私自身も識字教育から聖書翻訳の働きに転向し、千代子宣教師と共に働きました。また多くの日本の教会の皆様が祈りをもって支え続けてくださいました。昨年2009年には、アタ語の創世記、ヨナ書に加えて、新約聖書の全ての翻訳が完成し、2010年、韓国の印刷所で印刷され、パプアニューギニアに到着

久米のぞみ(聖書翻訳/パプアニューギニア)

しました。

今、アタの人々は、アタ語の聖書を自分の手にすることを心待ちにしています。私達の目には理解が難しい時にも主は共にいてくださり、嘆きを喜びに変えて、新約聖書の完成まで導いてくださいました。創世記がアタ語に翻訳された時に、アタの人々は歌を作りました。「神様がアタ語で語り始められた。私達は、この日を喜ぼう。」橋本一雄宣教師も、「このアタ語の働きはいつかきつときれいな花が咲く。」と、千代子宣教師によく話していたそうです。

2011年には、アタ語の新約聖書(創世記・ヨナ書付)の献呈式を予定しています。今まで、日本の各地から祈ってくださった皆様と共にこの喜びを分かち合えることを感謝しています。海の向こうから、尊いお祈りと献金を続けてくださり本当にありがとうございました。